厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究

沖縄地域のMSMにおけるHIV感染対策の企画と実施

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院　感染症・呼吸器・消化器内科学　准教授）
研究協力者：仲村秀太、田里大輔、仲里愛、原永修作、比嘉 太、藤田次郎（琉球大学大学院　感染症・呼吸器・消化器内科学）、宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）、金城健、植畑翔太（公益財団法人エイズ予防財団/nankr 沖縄）
沖縄県健康福祉保健部健康増進課、南部福祉保健所、中部福祉保健所、中央福祉保健所、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

研究Ⅰ．沖縄県におけるMSM向けHIV予防啓発プログラムの開発の検討

目的：沖縄県のMSMに対して地方都市向けHIV予防啓発プログラムの開発を検討した。
研究方法：1.コミュニティセンターmabuiの運営、2.HIV予防啓発プログラム、3.mabui への誘導プログラム、4.ゲイコミュニティ:ゲイバーへのアプローチ、5.ゲイバー以外のゲイコミュニティへのアプローチ、6.沖縄に訪れる県外MSMへのアプローチ、7.相談プログラム、8.検 査 誘導プログラム
結果：1.週 4 日の開館とした。オープンスペースに啓発資材の配置と導線を工夫した。2.4 月から 12 月末の間で、定期的啓発プログラムとイベント「Living Together café　in ryukyu」「ブラジル人HIV陽性者の講演会及び情報交換会」など、計 8 回実施した。3.新規来場者を含むコミュニティセンターの来場誘導プログラムとして、4 月から 2013 年 1 月の間に、「リョウコン」やイラスト展、「GOGO BOY special」など 11 のプログラムを実施した。4.沖縄県内のゲイバーへのコンドームとの配布については、4 月から 1 月末の時点で沖縄にある全てのゲイバー48 軒に 8,474 個配布した。コミュニティペーパー「nankr」は年に 4 回の発行を計画し、ゲイバー48 軒に加えて他の商業施設 8 軒で設置協力を得た。5.クラブイベントやスポーツ大会、発展場及びショップにコンドームやコミュニティペーパーで配布を行い、コミュニティセンター情報や検査キャンペーンなどの広報を行った。ゲイ沖縄裏掲示板やツイッター、メルマガにおいても上記と同様の広報を行った。6.沖縄に訪れる県外MSMへのアプローチとして、ゲイバー主催のビーチパーティや県外イベントにおいて資材を配布した。7. MSMの性的趣向を踏まえた、HIV予防、HIV検査機関、セクシュアルに関する悩み等の相談・情報提供を行った。8. 沖縄県と共催で、6 月より中央保健所、南部福祉保健所にて検査キャンペーンを実施した。
考察：コミュニティセンターmabui と nankr の活動がコミュニティに認知されるようになった。しかしプログラムのマンネリ化も否めず、プログラムの開発が必要と考えられる。行政との共催も増え、さらに協働できるようアプローチを進めていく方向である。

研究Ⅱ．HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査の解析（沖縄県福祉保健所検査）

目的：HIV 検査を軸としたエイズ対策に資するために、沖縄県における各検査施設における受検者の特徴を把握し、MSM、MSM以外の男性、女性別に属性等を比較検討し、MSM受検者の受検行動の啓発に最も有効な方策を明らかにする。

研究方法：沖縄県内の3保健所（南部福祉保健所、中部福祉保健、中央保健所）においてHIV検査の受検時に質問紙調査を実施した。実施期間は2012年1月から2012年9月末。
結果：2012年9月末までの結果を速報値として集計した。受検件数は1,542件であり、回収数は818件であった（回収率53.0%）。1.回数が進むにつれて受検者数は減少傾向を示し、アンケート回収率も低下したが、初受検、24歳未満者は増加傾向を示した。2. 受検者の年齢では、MSMと非MSM（男性群）では前者の受検者層の年齢が若かった。3. 居住形態では、独居では再受検者のMSMが37.5%と最も高かった。4. 健康保険加入状況ではMSMが最も低かった。5. 6ヶ月以内の性交渉経験はMSMが最も高かった。7. セーファセックスはMSM、女性の半分が施行していなかった。非MSM群でも35%が施行していなかった。7.周囲のHIV感染のリアリティではMSMが最も高く、再受検者では60%であった。8. HIV感染後の就労と恋愛の継続ではMSMが最も楽観的であった。9. HIV感染のリアリティさでは、3群ともほぼ同じであった。10. HIVに関する相談ツールの確保ではMSMの再受検者が最も高かった。11. 受検動機で自主的受検はMSMが最も高かった。再受検者では3群いずれも自主的受検の割合が初回受検者を上回った。12. 広報資材認知ではMSMが最も高かった。13. 広報資材の内訳においてMSMでは、行政関連が低く、コミュニティ発行資材の認知が高かった。本調査期間のHIV陽性率は0.52%（8件）であった。
考察：1. 受検者数とアンケート回収率が回数を重ねる毎に低下傾向を示したが、初受検と24歳未満者は増加傾向を示し、HIV検査の予防啓発の観点からは好ましい結果と思われた。2. MSMの受検者層の年齢が他の群に比して低かったのは、MSM はもっともハイリスクグループであるので好ましい結果であった。逆にいえば非MSM以外の男性では若年者層の受検の意識欠如が課題である。3. MSMでは経済状況が問題であり、受検における無料化は受検行動を惹起するのに有効と思われた。5. MSM層は、他の層に比して独自のネットワークでの広報が重要であることが改めて確認された。
結語：MSMのHIV受検誘導に有効な方策として、無料化、独自のネットワークによる広報が重要である。

研究Ⅰ. 沖縄県におけるMSM向けHIV予防啓発プログラムの開発の検討

A.研究目的

沖縄県のMSMに対して地方都市向けHIV予防啓発プログラムの開発を検討した。

B.研究方法

1. コミュニティセンターmabuiの運営
2. HIV予防啓発プログラム
3. mabuiへの誘導プログラム
4. ゲイコミュニティ:ゲイバーへのアプローチ
5. ゲイバー以外のゲイコミュニティへのアプローチ
6. 沖縄に訪れる県外MSMへのアプローチ
7. 相談プログラム
8. 検査誘導プログラム
9. MSMにおける行動科学調査および介入評価研究

C.研究結果

1. コミュニティセンター運営

1）月別来場者数と新規来場者数（図1）
木曜日から日曜日の週4日の開館とした。

2）オープンスペース（図2）
mabui ではカフェコーナー以外にオープンスペースを設け、MSM のサークルが実施するイベントや練習、ミーティング等に貸出しを行っている。その際、啓発資材の設置コーナーを通るような工夫を行った。

2.HIV 予防啓発プログラム（表 1）

1）なんくる倶楽部 R

偶数月の第３日曜日に HIV とゲイライフについてワークショップを行った。参加者が堅苦しくならないような環境づくりを工夫して行った。

2）Living Together café　in ryukyu

「すべての人が HIV とともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクト「Living Together 計画」に賛同して、9 月に宮古島のゲイバー、12 月にコミュニティセンターmabui にて開催した。パフォーマーらが陽性者などの手記を朗読するだけでなく、HIV に関する知識を○×クイズ形式で行い、楽しみながら HIV の知識がつくような企画を行った。

3)ブラジル人 HIV 陽性者の講演会及び情報交換会

沖縄県中部福祉保健所と共催で、ブラジルの HIV 陽性者運動のリーダーであるジョゼ・アラウージョ・リマ・フィーリョ氏を招き、「多様性を認める社会～ブラジルのエイズ対策から学ぶ～」と題した講演と情報交換会を行った。

3.mabui への誘導プログラム（表 2）

1）リョウコン

奇数月の第 3 日曜には、昨年度も多くの参加のあった「リョウコン」を継続して行った。イベント終了後には検査キャンペーンや啓発プログラム等の紹介を行った。

2）イラスト展

今年度はゲイに人気のあるイラストレーターによるイラスト展を積極的に開催した。

3）GOGO　BOY　special

県内で人気の GOGO　BOY を講師にパンクアップ教室とヨガ教室を行った。

4）組踊「二童敵討」上映会

同性愛の要素がみられるという沖縄の伝統芸能の組踊の映像を見ながら、沖縄での同性愛の歴史を学んだ。

5）ビギナーズキャンペーン

mabui 初来場者にコミュニティペーパーなどの啓発資材とローションがセットになった mabui セットを配布した。

4. ゲイコミュニティ:ゲイバーへのアプローチ

1）コンドーム（図 3）

引き続き nankr 童（わらばー）というチームを組み、お揃いのポロシャツを着て 2 週間に 1 度、本島内にある全てのゲイバー39 軒（那覇市33軒、沖縄市6軒）へオリジナルパッケージコンドームの補充を行った。また離島にある全てのゲイバー3 軒（宮古島 1 軒、石垣島 2 軒）には、それぞれ協力してくれる人をリクルートし、コンドームが少なくなると連絡を受けて郵送にて補充を行っている。コンドームのパッケージは沖縄の景色にし、実家住まいの県内在住者には持って帰り易く、県外からの観光客にはお土産にもなるようなデザインを行った。

2）コミュニティペーパー「nankr」

年に 4 回の発行を計画。2 面を特集ページとして、HIV の基礎知識や 2011 年の沖縄県内の新規 HIV 感染者・エイズ患者の報告を掲載して啓発色を強くした。また、表紙のモデルも色々なタイプや、所属するコミュニティにバリエーションを持たせることで新規の読者獲得を狙った。発行数は 2,000 部を基本とした。コンドームを設置しているゲイバーに加えてゲイアダルトショップ 1 軒、発展場 4 軒、ゲイ専用宿泊施設 3 軒にも設置してもらった。

5. ゲイバー以外のゲイコミュニティへのアプローチ

1）クラブイベント（表 3）

ゲイのみの入場が許されるクラブイベントにおいてトイレにオリジナルパッケージコンドームとコミュニティペーパーを入口に設置し、配布を行った。

2）沖縄ゲイ裏掲示板

沖縄における MSM の間で利用の多い掲示板へイベントや検査キャンペーンの告知の広報を行った。

3）スポーツ大会（表 4）

県内で行われる MSM のバレーボール・バドミントン・テニス大会において、開会式に時間を頂き、nankr の活動や mabui の説明、検査キャンペーン等の紹介を行い、参加者全員にコミュニティペーパー、オリジナルパッケージコンドーム、検査カードのセットを配布した。

4）ツイッター

mabui のツイッターにて、検査キャンペーンについて定期的にツイートし、イベント告知などにも利用。１月末現在のフォロアー数は 607 人であった。

5）メルマガ

nankr のメルマガ「オキマガ」にて県内のゲイイベントなどと一緒に nankr や mabui 情報を発信。メルマガの広報は常時コミニティペーパーに掲載し、mabui 来場者への勧誘も行った。1 月末現在の登録者数は 64 人であった。

6）発展場及びショップ

本地域にある全ての有料発展場（4 軒）とゲイショップ（１軒）にイベントポスターやコミュニティペーパーの設置を行った。

6. 沖縄に訪れる県外 MSM へのアプローチ（図 4）

沖縄は人口の割合からすると、ゲイ商業施設が多いと言われている。県外からの利用者が多いことがその理由として挙げられ、県外から訪れる MSM は沖縄のゲイコミニティの構成員と言える。そのため県外から訪れる MSM へのアプローチも重要と考えられる。

1）ビーチパーティ（表 5）

沖縄県内には各ゲイバー主催のビーチパーティが行われる。その中でも最大で 300 人以上（県外からの参加者は半分以上）が参加するイベントの協力を取り付け、送迎バス降車時にコミュニティペーパーとオリジナルパッケージコンドームのセット資材の配布を行った。

2）県外イベント（表 6）

名古屋で行われた検査会と連動されたゲイイベント「NLGR＋」では、NGO ブースに資材を設置した。仙台で実施された「僕らの課外授業　Living Together in SENDAI」に沖縄のエイサー団体が出演し、来場者にコミュニティペーパーとオリジナルパッケージコンドームのセットを配布した。

7. 相談プログラム（表 7）

MSM の性的趣向を踏まえた、HIV 予防、HIV 検査機関、セクシュアルに関する悩み等の相談・情報提供を行った。

1）mabui スタッフによる相談

センター内での対面、電話、メールで相談を受けた。対面については個室を設けるのではなく、オープンスペースでの対応を行った。

2）専門家によるカウンセリング

セクシュアルマイノリティに理解のあるカウンセラーによるカウンセリング会を、月に 1 度開催した。mabui スタッフで対応できない事案についてはこちらを勧めた。

3) mabui スタッフ研修

カウンセラーによる相談を受ける上での心得を研修として学んだ。

8.検査誘導プログラム（表 8）

沖縄県と共催で、6 月より中央保健所、南部福祉保健所（南部福祉保健所は改築工事のため､9 月から 12 月中旬まで HIV 検査を中断）にて MSM を対象とした検査キャンペーンを実施した。各保健所の通常実施している検査体制の中で専用の検査カードを受付時に提示すると梅毒、B 型肝炎、クラミジア検査も無料で受けられるようにした。

9.MSM における行動科学調査および介入評価研究

1)インターネット横断調査および追跡パネル調査

コミュニティベースの携帯電話による性の健康に関する質問紙調査(以下､GCQ アンケート）として、クラブイベント等と連携した横断調査、その後の追跡パネル調査を実施した（研究方法の詳細については、分担研究の「MSM における HIV 感染の行動科学調査および介入研究」を参照)。

沖縄地域では、クラブイベントと連携したコミュニティベースの質問紙パネル調査を 5 月、7 月、9 月、12 月に実施した。4-5 月の横断調査では 245 件の有効回答を得た（ただしこの 245 件には他地域で実施した調査で、居住地が沖地域であると回答した人を含む)。5 月は 36 件、7 月は 49 件、9 月は 36 件、12 月は 33 件の有効回答を得た（図 5)。

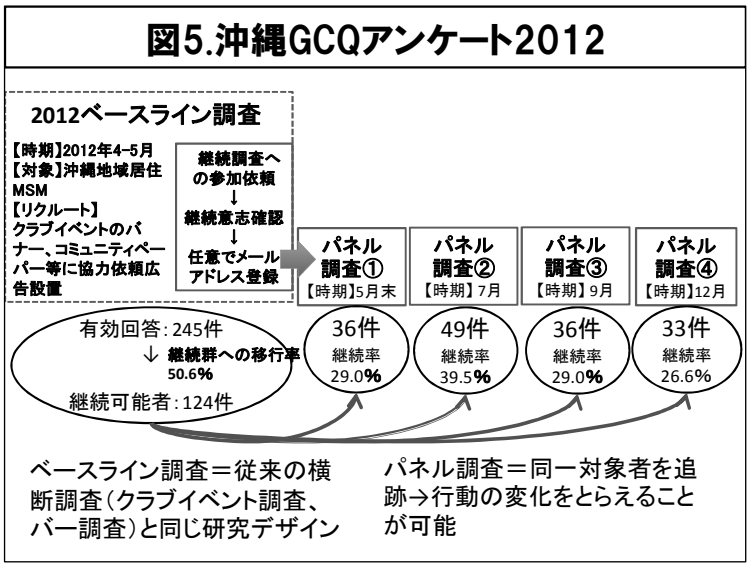
D.考察

1.コミュニティセンター運営

2012 年 4 月から 2013 年 1 月までの総来場者数は 1,668 人で、前年の同期間の 1,272 人と比べて約 1.3 倍に増えた。そして新規来場者は 169 人で、前年の 113 人から約 1.5 倍に増えた。これは mabui 誘導プログラムの成果と考えられる。オープンスペースの利用も来場するよいきっかけとなった。

2.HIV 予防啓発プログラム

「なんくる倶楽部 R」は、ワークショップ形式でのプログラムで参加者も経験を踏まえて予防について学ぶことができ、参加しやすい雰囲気であったと評価を得た。「Living Together café in ryukyu」では、参加者が○×クイズ方式で楽しみながら HIV の知識を得ることができた。特に宮古島の Living Together café では、会場を提供してくれたゲイバーのマスターが広報を積極的にしてくださり､小さな島にも関わらず 24 人もの来場者があった。手記朗読もゲイバーのマスターをはじめ地元の方にして頂き、HIV を身近に感じることができたと考えられる。来場者と



の交流会ではHIVについての質問もでて関心をもってもらうきっかけとなった。ブラジル人HIV陽性者の講演会及び情報交換会では、世界でもエイズ対策が進んだ国として高い評価を得られているブラジル社会の背景について学び、陽性者自身と直接話すことで、参加者のHIVに対する偏見の軽減につながったと考えられる。

3.mabuiへの誘導プログラム

昨年度より継続しているリョウコンは、ほぼ毎回20人以上の参加者があり、新規来場者の参加も毎回得られた。今年度積極的に行ったイラスト展においても、それを目当てに来場する人が多くみられ、新規来場者獲得にもつながった。特に木村べん原画展の反響は大きく、中高年の来場者も多かった。GOGO Boy specialと組踊上映会はコミュニティの中からの提案により共催で行われた。これらのことから、mabuiという場所が、コミュニティの中で認知されていることが示された。初来場者に配布しているmabuiセットの中にあるローションがツイッターやゲイバーなどコミュニティの中で話題になっており、今後の新規来場者獲得につながると推察される。

4.ゲイバーへのアプローチ

2週間に1度のアウトリーチ活動は、スタッフの負担は大きいが、継続することでゲイバーのマスターの本活動への認知が深まり、協力も得ることが容易になってきた。コミュニティペーパーへのアドバイスなどもアウトリーチの際に受けたりするようになり、マスターとのコミュニケーションの場ともなってきた。コミュニティではコミュニティペーパーの表紙モデルになることがステイタスになりつつあり、モデルの募集を行うと、ツイッターやゲイバーで話題にされるといった波及があった。ゲイバーへのコンドーム補充は 4月から1月までで8,474個で、昨年の同期間と比べると約 1,000 個増加しており、ゲイバーにおけるコンドームの持ち帰りが増えたことが示された。

5. ゲイバー以外のゲイコミュニティへのアプローチ

普段ゲイバーに行かない人や10代MSMのmabui への来場や、イベントへの参加が増えた。ツイートした告知をリツイートしてくれる人も増え、ツイッターも重要なアプローチツールになりつつある。

6.沖縄に訪れる県外MSMへのアプローチ

昨年度と同じペースでの mabui への来場者となった。沖縄のゲイバーなどコミュニティについての情報を求めて足を運ぶ人も多く、県外の人にとっても沖縄のゲイコミュニティの情報提供の場になりつつある。その際にmabuiやnankrの活動紹介オリジナルパッケージコンドームを提供するなど啓発を行った。

7.相談プログラム

まだ、コミュニティおける相談事業の認知は低く相談件数は多くはないが、HIV 関係の相談もあり、セクシャルの悩みなどからリスクの高い性交へと向かう可能性もあると考えると、重要な事業だと思われる。月に1回の専門家によるカウンセリングはなかなか日程が合わず相談できない人もいるが、スタッフが受けた相談のリソース先としての役割は大きいと考えられる。

8.検査誘導プログラム

6月から1月の8ヶ月間で135人が受検し、初受検者は18人であった。HIV陽性の結果が出た者が3人であった。

E.結語

mabui が中心地となり、nankr の活動はコミュニティに認知されるようになってきた。しかし、プログラムのマンネリ化も否めず、新たなプログラムの開発が必要となってきて

いる。このためにも、ボランティアをリクルートし、啓発活動を活性化することが急務と言える。

行政との共催は増えてきており、さらに協働できるようアプローチを進めていく方向である。

研究Ⅱ. HIV 抗体検査受験者を対象とした質問紙調査の解析（沖縄県福祉保健所検査）

A. 研究背景と目的

沖縄県における HIV 感染者の増加は 1999 年より顕著となり、2007 年以降、連続して全国3位以内を占めており、その85%以上がMSMである。AIDS の届出については、2011 年は人口比で全国 1 位となり、受検の向上が急務である。以上より、沖縄県における HIV 感染の増大は大部分が MSM 間で起きており、病期の進行した症例が多くを占めていることが明らかとなり、MSM における検査受検率を現状よりも高めて、感染者を速やかに医療機関へとつなぐことが喫急の課題と言える。

これらの背景から、HIV 検査を軸としたエイズ対策に資するために、沖縄県における各検査施設における受検者の特徴を把握し、MSM、MSM 以外の男性、女性別に属性等を比較検討し、MSM 受検者の受検行動の啓発に最も有効な方策を明らかにすることを目的としてアンケート調査を行った。

B. 研究方法

1. 組織と方法

沖縄県において沖縄県健康福祉保健部健康増進課の協力を得て、3 ヶ所の保健所で実施した。

実施期間中、協力検査機関を利用した HIV を含む性感染症の検査受検者の来場時に、調査依頼とともに質問紙を配布した。通常検査・即日検査ともに、結果を返す前(受付～採血終了～結果告知前のいずれかの時点で)の記入を依頼した。記入後、回答者本人が回答用封筒を密封し、回収箱に投函して回収した。各協力機関において回収されたアンケートを毎月月末にまとめ、報告票とともに名古屋市立大学調査事務局に送付し回収した。本調査は倫理的配慮として名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施された(ID 番号 11026-2)。

本報告では、回答者の性別が男性であり、生涯に男性との性行為経験を有するものを MSM とし、MSM 以外の男性、女性の 3 群に分類した。推移を検討する際には実施時期を第 1 四半期(2012 年 1 月-3 月)、第 2 四半期(4 月-6 月)、第 3 四半期(7 月-9 月)の 3 群に分類し解析を進めた. また属性等を把握する目的で全体を集計する場合には、本調査に初回回答であり、各項目に無回答であったものを除いたものを分析対象者とした。

2. 研究期間

2012年1月から2012年9月末までとした。

3. 実施地域

沖縄県那覇市、南城市、沖縄市の 3 保健所（南部福祉保健所、中部福祉保健所、中央福祉保健所）で実施した。

4. アンケート内容

質問項目は基本属性、性行動、介入プログラムの認知等全 24 問とした。介入の認知項目以外は本研究班で実施されている他地域の質問項目と同じ項目とした。

C. 研究結果

1. アンケート回収数（図 5、6）

本報告では2012年9月末までの結果を速報値として集計した。実施期間中、協力機関で実施された受検件数は 1,542 件であり、回収数は 818 件であった（回収率 53.0%）。

2. 回答者の属性

有効回答者数818件に占めるMSMの割合は178件で21.8%であった。

3. 同居率に関する事項

3群に有意差は認めなかった。

4. 健康保険加入状況（図7）

MSMが最も低率であった。MSMの初受検者と再受検者との比較では有意差がみられ、初受検者では加入割合が低かった。

5. 過去6ヶ月以内の性交渉の経験（図8）

MSMが最も高かった。

6. 性交渉時のコンドームの常用率（図9、10）

過去6ヶ月のコンドーム非常用率をみると、初受検者ではMSMが57.6%、女性が47.2%（図10）、MSM以外の男性が37.7%（図11）でMSMが最も高かった。再受検者では、女性が初受検者より高く59.8%であった。MSM、MSM以外男性は初受検者と同程度で各々53.8%、35.7%であった。

7. HIV罹患のリアリティ調査（図11、12）

1）周囲にHIV感染者がいると思うかの質問に有意差が見られ、いると思うと回答した割合はMSMが最も高かった。男性と女性については、その半分以下で男女差は認めなかった。

2）自分はHIVに罹患していると思うかの質問に対しては、3群で有意差は認められなかった。

8. 受検動機（図13）

自主的に受検した割合は、初受検者では3群で有意差は認めなかった。一方、再受検の3群間では有意差が見られ、特にMSMでは自主的に受検した割合が初受検者に比べて再受検者は有意に高かった。3群とも再受検者が初受検者を10%程度上回っていた。

9. 同伴者の有無（図14）

女性では同伴者の割合が高く、MSMと男性の間では差は認められなかった。

10. 広報資材の認知（図15）

3群とも78%以上資材を認知していたが、MSMでは認知の割合が高かった。

11. 広報資材の種類（図16）

MSM以外では70%が行政の資材またはホームページであったのに比してMSMではNGO資材が半数を占めていた。

D. 考察

1. 受検者数とアンケート回収率が回数を重ねる毎に低下傾向を示したが、初受検と24歳未満者は増加傾向を示し、HIV検査の予防啓発の観点からは好ましい結果と思われた。

2. MSMの受検者層の年齢が他の群に比して低かったのは、MSMはもっともハイリスクグループであるので好ましい結果であった。逆にいえば非MSM以外の男性では若年者層の受検の意識欠如が課題である。

3. MSMでは経済状況が問題であり、受検機会における無料化は受検行動を惹起するのに有効と思われた。

4. 広報手段ではMSMではNGO資材が半数を占めていた。MSM層では他の層に比して独自のネットワークでの広報が重要であることが改めて確認された。

E. 結語

MSMのHIV受検に有効な策として、無料化、独自のネットワークによる広報が重要である。

F. 個人情報の管理について

1. 個人情報の紛失、流出、改ざんおよび漏洩などを防ぐため、個人情報を保有するのは研

究代表者と分担研究者のみとし、情報管理上問題は発生しなかった。

2. 法令等の順守について
個人情報保護に関して適用される法令、国のガイドラインを熟読し順守した。

G. 発表論文等

（○印は当研究班に関連した発表論文等）

(研究論文)

1. Teruya H, Tateyama M, Hibiya K, Tamaki Y, Haranaga S, Nakamura H, Tasato D, Higa F, Hirayasu T, Furugen T, Kato S, Kazumi Y, Maeda S, Fujita J : Pulmonary Mycobacterium parascrofulaceum infection as an immune reconstitution inflammatory syndrome in an AIDS patient, Intern Med, 49:1817-21, 2010
2. 健山正男:日本におけるHIV診療の現況, 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌, 40: 15-21, 2010
3. Hideta Nakamura, Masao Tateyama, Daisuke Tasato, Syusaku Haranaga, Satomi Yara, Futoshi Higa, Yuji Ohtsuki, Jiro Fujita: Clinical utility of serum β-d-glucan and KL-6 levels in Pneumocystis jirovecii pneumonia, Intern Med, 48:195-202, 2009
4. Hibiya K, Kazumi Y, Nishiuchi Y, Sugawara I, Miyagi K, Oda Y, Oda E, Fujita J: Descriptive analysis of the prevalence and the molecular epidemiology of Mycobacterium avium complex-infected pigs that were slaughtered on the main island of Okinawa, Comp Immunol Microbiol Infect Dis, 33:401-21, 2010
5. Hibiya K, Utsunomiya K, Yoshida T, Toma S, Higa F, Tateyama M, Fujita J: Pathogenesis of systemic Mycobacterium avium infection in pigs through histological analysis of hepatic lesions, Can J Vet Res, 74:252-7, 2010
6. Satoshi Toma, Tsuyoshi Yamashiro, Shingo Arakaki, Joji Shiroma1, Tatsuji Maeshiro, Kenji Hibiya, Naoya Sakamoto, Fukunori Kinjo, Masao Tateyama, Jiro Fujita: Inhibition of intracellular hepatitis C virus replication by nelfinavir and synergistic effect with interferon-α, J Viral Hepat, 16:506-12, 2009

(国内学会発表)

1. 前田サオリ,宮城京子,健山正男,石川章子,田里大輔他：定期受診が遵守できない患者の要因の検討,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
2. 椎野禎一郎,服部純子,潟永博之,吉田繁,健山正男他:国内感染者集団の大規模塩基配列解析 3:希少サブタイプとサブタイプ間組換え体の動向,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
3. 宮城京子,前田サオリ,健山正男,石川章子,田里大輔他：沖縄県におけるコーディネーターナースの活動状況,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
4. 田里大輔,健山正男,仲里愛,飯田行,千葉至他：脳血流シンチグラフィーを用いた HAND 患者 18 例における脳血流動態の検討,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
5. 仲里愛,富永大介,健山正男,田里大輔,仲村秀太他：HAND における前頭葉機能障害と精神症状の関連,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
6. 健山正男,井濱容子,深沢真希,田里大輔,仲村秀太他：沖縄県の法医解剖症例における HIV 感染率の前方視的検討,第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会,横浜市,2012
7. ○塩野徳史,新ヶ江章友,金子典代,市川誠一,山本政弘,健山正男,内海眞,生島嗣,鬼塚哲郎：ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価

に関する研究,第 25 回エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

8.健山正男,井濱容子,深沢真希,錦戸雅春,宮城京子,仲村秀太,田里大輔,原永修作,比嘉太,藤田次郎,宮崎哲次,大城市子,前田サオリ,石郷岡美穂:剖検例における長期 ART 患者の動脈硬化の病理学的検討,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

9.服部純子,椎野禎一郎,潟永博之,林田庸総,吉田繁,千葉仁志,小池隆夫,佐々木悟,伊藤俊広,内田和江,原孝,佐藤武幸,上田敦久,石ヶ坪良明,近藤真規子,長島真美,貞升健志,古賀一郎,太田康男,山元康之,福武勝幸,加藤真吾,藤井毅,岩本愛吉,西澤雅子,岡慎一,伊部史朗,横幕能行,上田幹夫,大家正義,田邊嘉也,渡辺香奈子,渡邉大,白坂琢磨,小島洋子,森治代,中桐逸博,藤井輝久,高田昇,木村昭郎,南留美,山本政弘,松下修三,藤田次郎,健山正男,杉浦亙:新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

10.椎野禎一郎,服部純子,潟永博之,吉田繁,伊藤俊広,上田敦久,近藤真規子,貞升健志,藤井毅,横幕能行,上田幹夫,田邊嘉也,渡邉大,森治代,藤井輝久,南留美,健山正男,杉浦亙:国内感染者集団の大規模塩基配列解析 2: Subtype B の動向と微小系統群の同定,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会,東京, 2011

11.前田サオリ,宮城京子,石川章子,田里大輔,仲村秀太,健山正男,藤田次郎,仲里愛,富永大介,諸見牧子,新江裕貴,石郷岡美穂,大城市子:食道癌のため嚥下困難となり認知能低下した患者の看護 ―患者のニーズに寄り添った看護―,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

12.西島健,高野操,石坂美千代,潟永博之,菊池嘉,遠藤知之,堀場昌英,金田暁,藤井毅,内藤俊夫,吉田正樹,立川夏夫,横幕能行,藤井輝久,高田清式,山本政弘,松下修三,健山正男,田邊嘉也,満屋裕明,岡慎一:HIV 感染症の初回治療でアタザナビル/リトナビルを固定しエプジコムとツルバダを無作為割付するオープンラベル多施設臨床試験:ET study,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会,東京,2011

13.仲里愛,富永大介,田里大輔,宮城京子,前田サオリ,仲村秀太,原永修作,比嘉太,健山正男,藤田次郎:HIV 関連神経認知障害(HAND)の神経心理学的評価,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

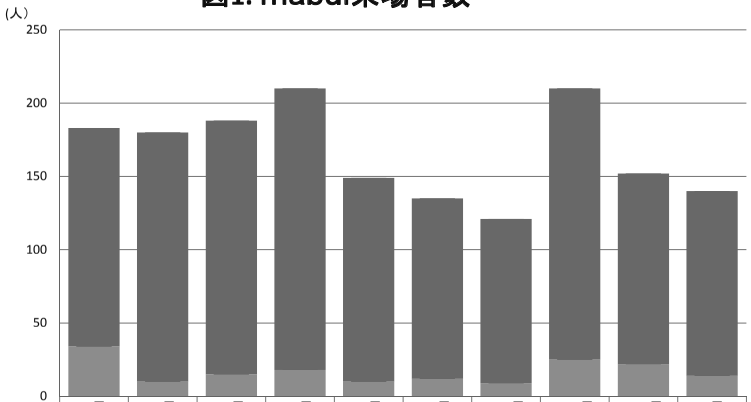
14.田里大輔,健山正男,仲里愛,宮城京子,前田サオリ,仲村秀太,原永修作,比嘉太,富永大介,藤田次郎:神経心理学的検査にて早期 HIV 関連神経認知障害(HAND)を捉える事ができた急性 HIV 感染症の 2 例,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

15.菊池嘉,遠藤知之,宮城島拓人,伊藤俊広,中村仁美,田邊嘉也,上田幹夫,横幕能行,渡邊大,藤井輝久,南留美,健山正男:多施設共同免疫学調査における HAART の有効率 2010,第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,2011

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得　無し
2. 実用新案登録　　無し

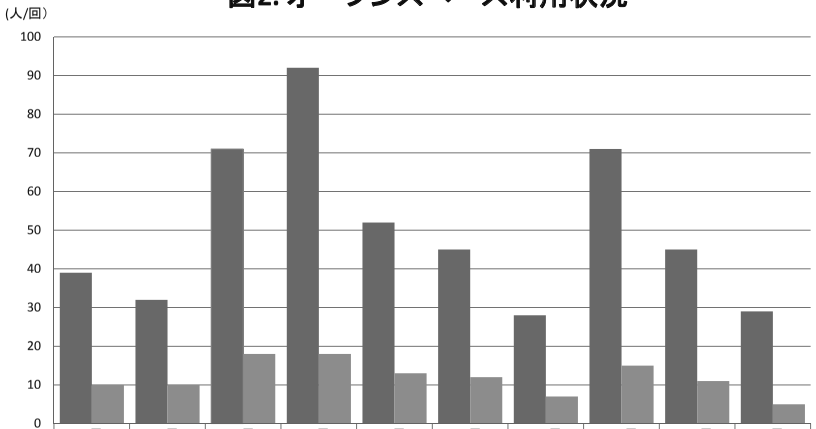
図1. mabui来場者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■総来場者数	183	180	188	210	149	135	121	210	152	140
■再来場者数	149	170	173	192	139	123	112	185	130	126
■新規来場者数	34	10	15	18	10	12	9	25	22	14

新規来場者数	再来場者数	総来場者数合計
169	1499	1668

図2. オープンスペース利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■人数	39	32	71	92	52	45	28	71	45	29
■回数	10	10	18	18	13	12	7	15	11	5

利用人数合計	利用回数合計
504	119

表1. HIV予防啓発プログラム

日付	テーマ	来場者
4月15日	なんくる倶楽部R「恋人ともセーファーセックス」 「理想の彼氏とは」	7(1)
6月17日	なんくる倶楽部R「恋人ともセーファーセックス」 「僕のフェチ×未知のフェチ」	8(0)
8月19日	なんくる倶楽部R「ひとりで抱えずに相談を」 「男♂を上げる磨きかた!!」	6(1)
9月20日	Living Together in MIYAKOZIMA	24
10月21日	なんくる倶楽部R「HIVの治療には金銭的な支援がある」 「ゲイが思う理想の暮らし」	4(1)
12月1日	Living Together Cafe - r y u k y u - vol.6	36(3)
12月13日	多様性を認める社会～ブラジルのエイズ対策から学ぶ～	8(0)
12月16日	なんくる倶楽部R「セーファーセックスについて」 「今日Hできちゃうかも…そんな時あなたは??」	11(1)

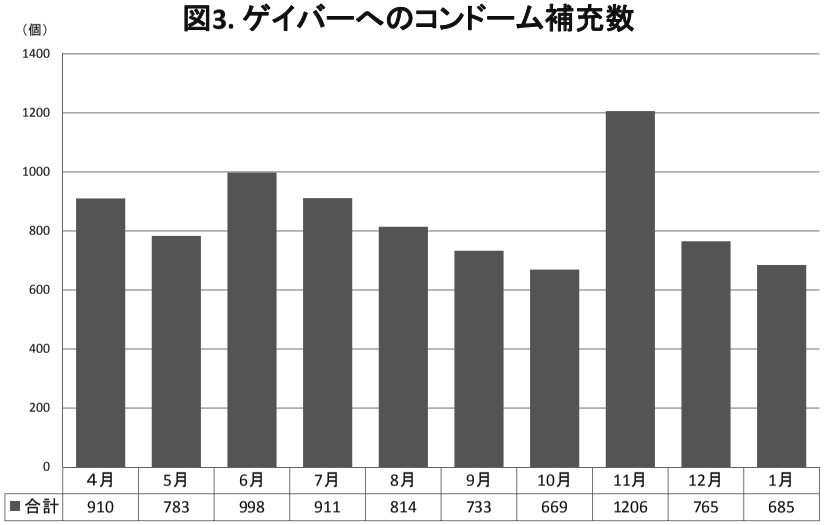
*()は新規来場者数

表2. mabuiへの誘導プログラム

日付	テーマ	来場者
4月12日～4月23日	木村べん原画展	44(26)
4月22日	組踊「二童敵打」上映会	7(0)
5月20日	リョウコン 「5月なのにナンで沖縄夏野菜カレー作り編」	21(2)
7月15日	リョウコン 「暑さを吹っ飛ばせ！沖縄風ぜんざい編」	22(4)
9月16日	リョウコン 「皮から作る本格手作り餃子編(沖縄風味)」	13(1)
9月16日～9月23日	SUV EXHIBITION TOUR LOST VIRGIN in OKINAWA	20(8)
10月6日	GOGO BOY Secial !! ～あのGOGO BOYが、mabuiであなたを指導～	9(0)
11月1日～11月18日	moriuo exhibition Hello goodbey	11(2)
11月18日	リョウコン「GOGO Boy Kohが伝授する簡単・節約パスタ編」	22(2)
12月6日～12月23日	イラストレーター十 めんたいこ展	22(6)
1月20日	リョウコン「沖縄そばに炊き込みご飯作っちゃうぞ編」	13(2)

*()は新規来場者数

図3. ゲイバーへのコンドーム補充数



補充数合計
8474

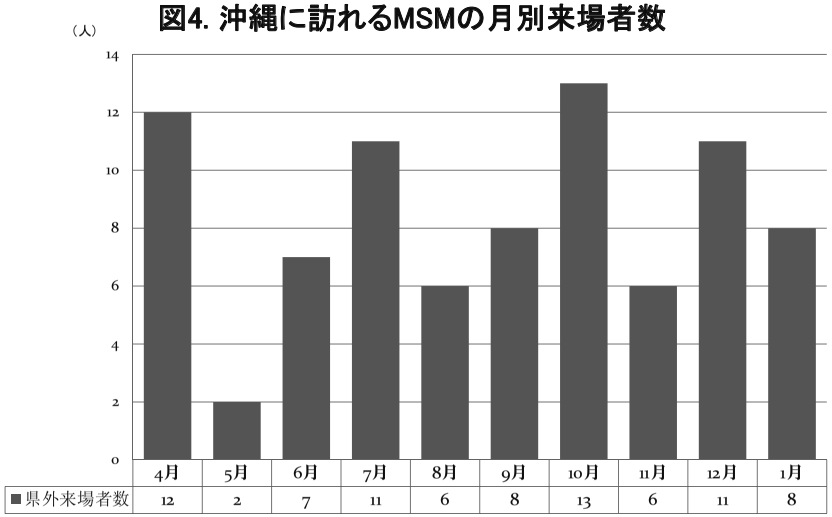
表3. クラブイベントの来場者が持ち帰った資材とその数

日付	クラブイベント	コンドーム	コミュニティーペーパー
5月12日	A	100	76
7月7日	B	140	100
7月8日	C	38	28
合計		278	204

表4. スポーツ大会で配布した資材とその数

日付	イベント	コンドーム	コミュニティーペーパー
6月10日	テニス大会A	56	56
6月24日	バレー大会B	60	60
7月1日	テニス大会C	160	160
9月23日	テニス大会D	150	150
10月7日	バドミントン大会E	50	50
1月6日	テニス大会E	48	48
合計		524	524

図4. 沖縄に訪れるMSMの月別来場者数



県外利用者数合計
84

表5. ビーチパーティーにおける資材と配布数

日付	イベント	コンドーム	コミュニティーペーパー
7月8日	ビーチパーティーA	150	150
合計		150	150

表6. 県外イベント配布数

日付	イベント	コンドーム	コミュニティーペーパー
6月2・3日	イベントA	50	50
8月5日	イベントC	98	98
合計		148	148

表7. 相談事業

月	相談件数
4月	1
5月	4
6月	4
7月	3
8月	4
9月	1
10月	6
11月	6
12月	4
1月	3
合計	36

相談内容(複数)

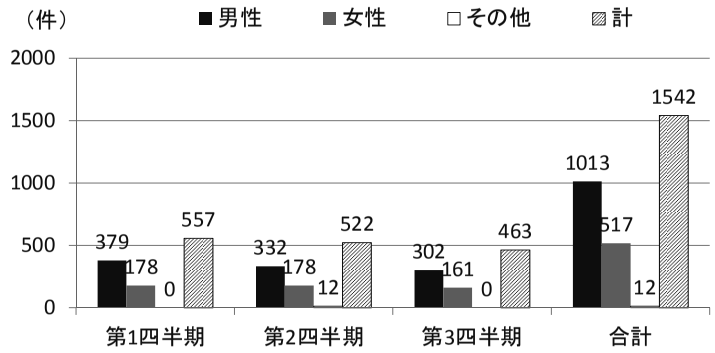
- ・ライフステージ 11件
- ・企業・行政等との協同 7件
- ・恋愛・セックス 7件
- ・精神的不安・疾患 7件
- ・HIV検査に関する相談・報告 2件
- ・アイデンティティ 2件
- ・HIV陽性者としての生活・制度・支援 2件
- ・現在のパートナーとの関係 2件
- ・経済的な不安・問題 2件
- ・HIV感染不安 1件
- ・STI検査 1件
- ・エイズに関する一般的な質問 1件
- ・家族との関係 1件
- ・その他 6件

表8. 保健所と実施したMSM対象のHIV検査キャンペーンの検査結果

受検者数	受検回数		
	(初めて)	(2回以上)	未記入
135	18	89	28

	HIV	梅毒		HBs		クラミジア(簡易検査)
		RPR	TPHA	抗原	抗体	尿検査
受検者数	135	111	111	105	105	54
陽性者数	3	10	14	1	25	0

図5. 検査件数

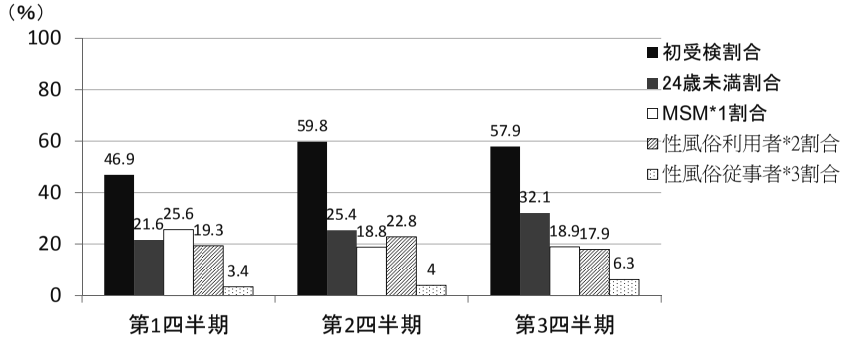


陽性判明数（性別）	2（0）件	2（0）件	4（0）件	8（0）件
陽性判明率（性別）	0.53（0.00）%	0.60（0.00）%	1.32（0.00）%	0.79（0.00）%
陽性判明率（全体）	0.36 %	0.38 %	0.86 %	0.52%

※（ ）内は女性

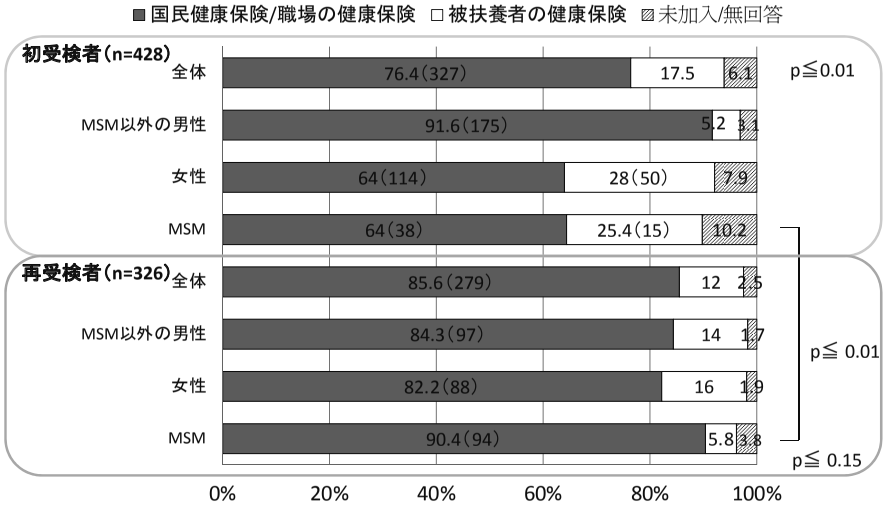
図6. 回収数と回収率

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	計
回収数	352	276	190	818
回収率	63.2%	52.9%	41.0%	53.0%



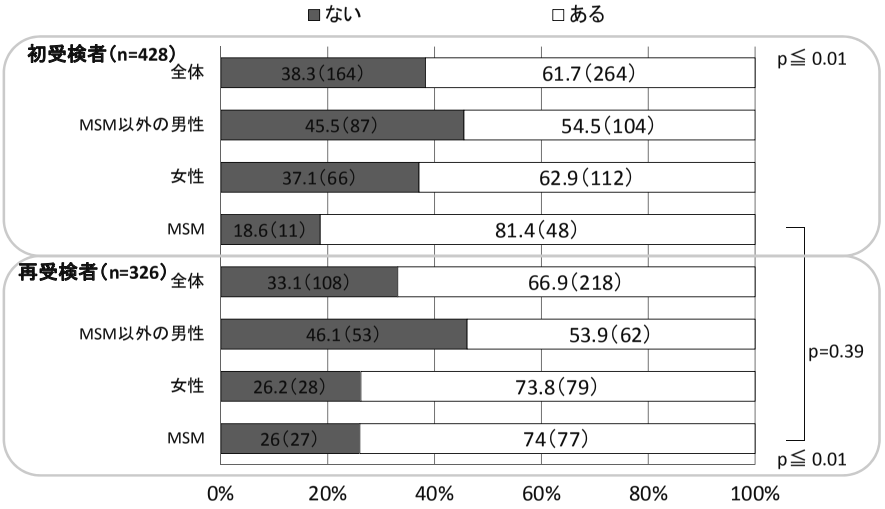
*　当該期間に得られた回答すべてを母数として割合を算出した
*1 Men Who have sex with men; 生涯に男性との性交経験を有する男性
*2 過去6ヵ月間にお金を払った性交経験を有する人
*3 過去6か月間にお金をもらった性交経験を有する人

図7. 健康保険加入状況



※（ ）内は人数

図8. 過去6か月間の膣性交または肛門性交経験



※（ ）内は人数

図9. 男性との過去6ヵ月間のコンドーム使用状況

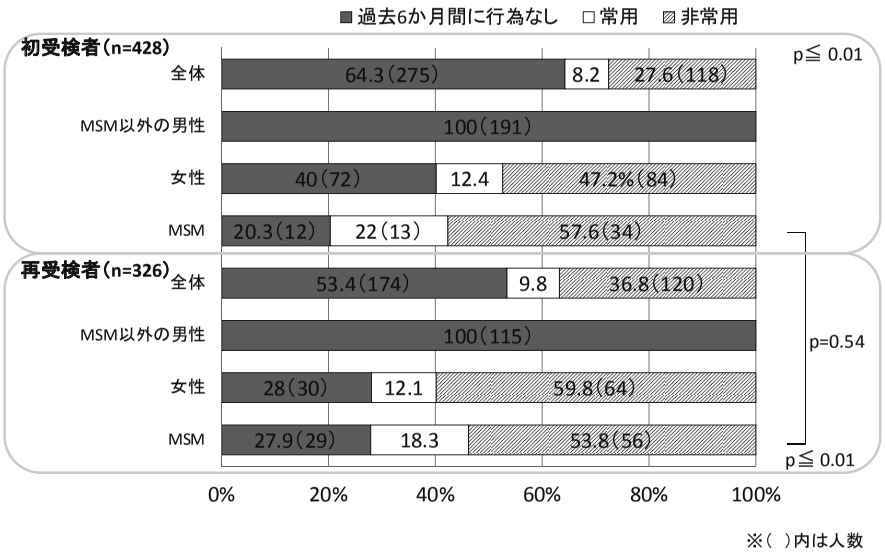


図10. 女性との過去6ヵ月間のコンドーム使用状況

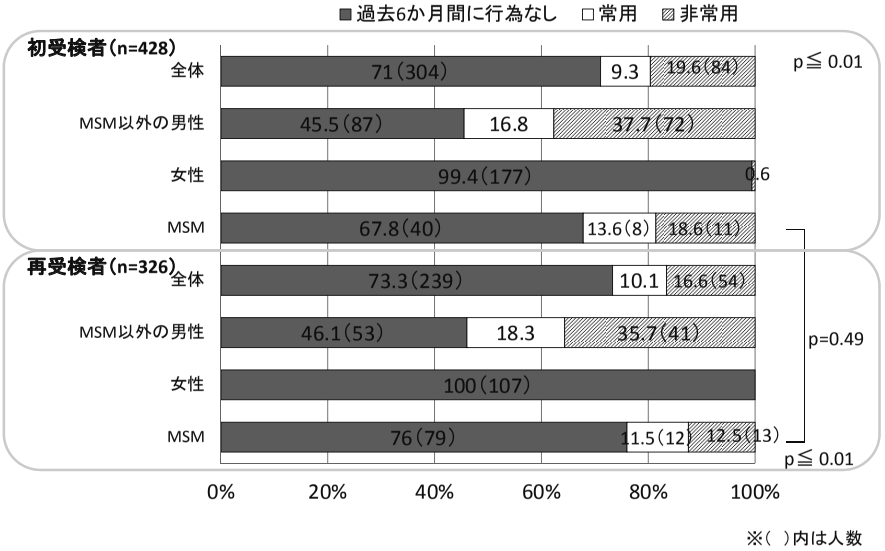


図11. 周囲のHIV感染者の有無

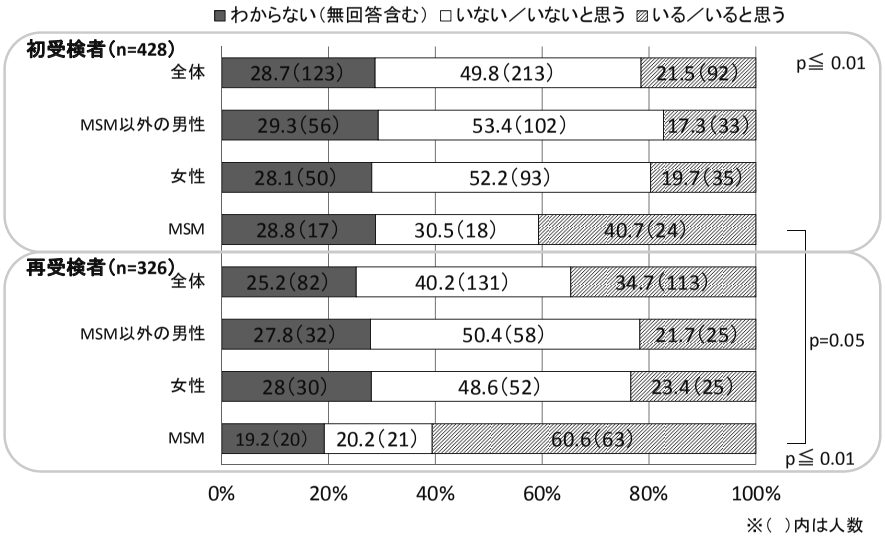


図12. 過去6か月間内の自身のHIV感染の自覚

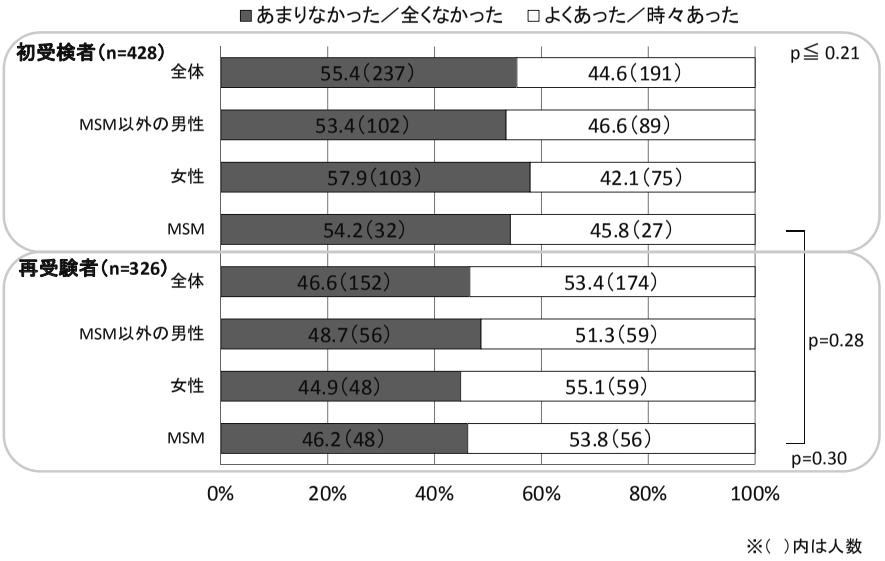


図13. 受検動機

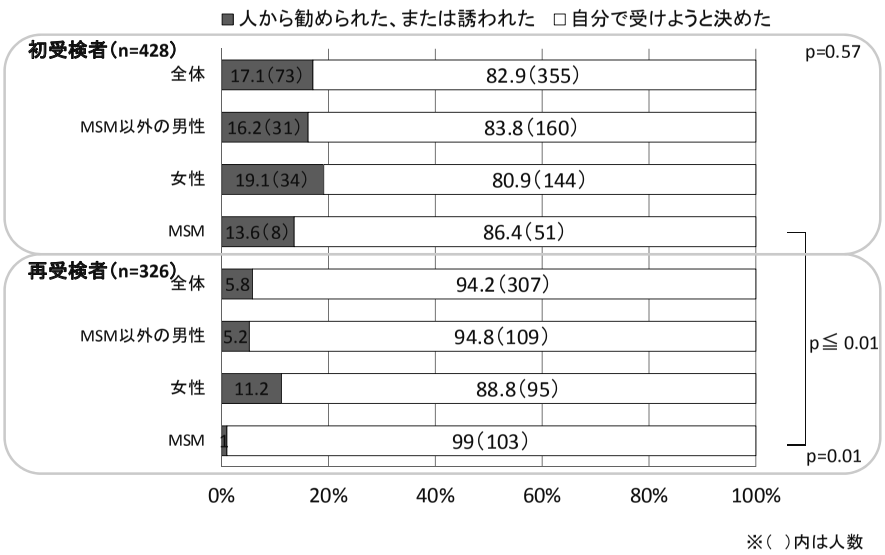


図14. 同伴者の有無

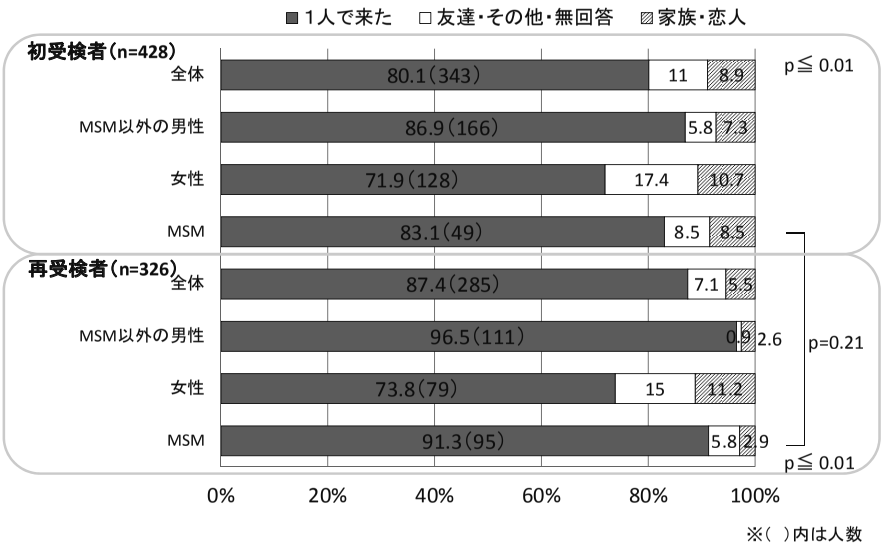


図15. 広報資材認知

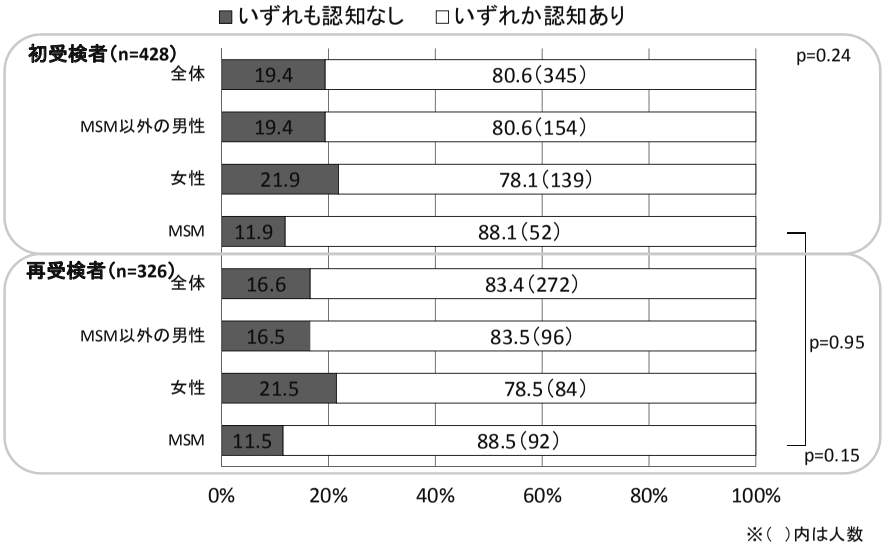
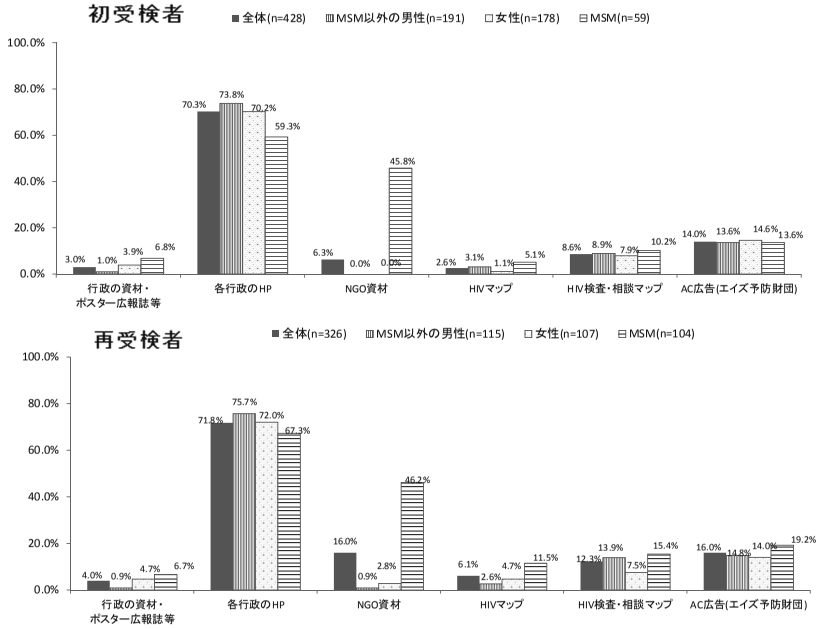



図16. 広報資材認知(複数回答)